

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
つちづくり	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	土を再生し、農作物を育てる。	1年各担任	1年生 教職員	・土の再生に関心をもって野菜栽培に取り組んだ。種を集めて観察する活動を通して、生命の循環について考えた。採集した種を一度冷蔵し、温度管理をして発芽させるなど実験的に行い、新しい芽が出るということを経験した。 ・一人一鉢、大豆を育て、成長していく様子を観察し、記録カードを書いた。国語の「すがたを変える大豆」と関連付けながら学習を進めたり、給食で提供される手作り味噌の作り方の動画を視聴したりして、大豆が様々な食品に変化するということを学ぶことができた。 ・各クラスで、グループごとにモンシロチョウが成虫になるまでの様子を観察したり、お世話をしたりして大切に育てることができた。	【取組の評価】■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・活動を通して自然環境を再体験・再発見し、子どもたちの「自然」に対する見方や考え方に変容が見られた。 ・卵からの生育過程で、幼虫が寄生虫の被害に遭ったり、蛹からかえらなかつたりしたことで死の様子を目の当たりにし、子どもたちは命の尊さ身近に感じながら学ぶことができた。 【今後の課題】 ・他学年への接続や、地域を動員した地域とともに学ぶ環境教育の推進。 ・大豆を様々な食品に変化させる体験ができるような機会の設定。 ・実体験に基づく命の尊さへの学びと道徳を関連させた学習の推進。 【次年度への引継ぎ事項】 ・業者キット使用しない栽培による成功を前提としない理科的な学びの場として位置付けたい。生活科としては仮説実験的に扱わずに、児童の生活経験を基盤としたアクチュアルな(トマトさんはどうしたいのかな?)学びとしたい。 ・収穫した大豆を使って調理を行うためには、一人一鉢で育てるよりも畑で育てて収穫した方がよい。 ・モンシロチョウを扱う場合、キャベツを栽培して卵を採取するか、地域の農家をお願いして卵を採取させていただくことを検討した方がよい。
		1	生活科でミニトマト・野菜を栽培して観察を行う。その後、調理して食べる。	2年各担任	2年生		
		1	大豆を種から育て、成長過程を観察する。大豆を収穫し、様々な食品に変化する過程を学ぶ。	3年各担任	3年生		
大豆を育てよう	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	大豆を種から育て、成長過程を観察する。大豆を収穫し、様々な食品に変化する過程を学ぶ。	3年各担任	3年生	・理科「季節と生き物」の学習と関連させ、継続的に観察を行いながらツルレイシを大切に育てた。ツルレイシの水やりを自主的に行ったり、雨風の強い日には鉢を安全な場所に移動させたり、植物を大切に思う姿が見られた。	
モンシロチョウを育てよう	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	モンシロチョウの卵から蝶まで育て、成長過程を観察する。育ち方や体のつくりなど、自分なりの疑問を探求する。	3年各担任	3年生		
ツルレイシを育てよう	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	ツルレイシを種から育て、よく育つための条件を学習する。	理科担当	4年生		
ごみはどこへ	電気、水、紙などの資源を大切にします。 (省エネ、省資源) リサイクルをはじめ、廃棄物を削減に向けて取り組みます。 (廃棄物削減)	1	ゴミがどこへいくのか、学習する。	4年各担任	4年生	・環境事業センター見学を通して、ごみの処理方法やその課題についての理解を深めた。また、ごみ削減の意識向上が図れた。さらに、環境事業センターと協力しながら、不法投棄を減らすための看板づくりを行い、地域環境の美化に貢献した。	【取組の評価】□達成できた ■ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・植物に興味をもった子どもは自主的にツルレイシの様子を見るなど、習慣的な観察を継続した。なかなか興味をもてなかった子どもは、理科の授業における観察にとどまった。 ・ごみの処理方法などについて、環境事業センターに行って知ることができた。一方で、リサイクルについて、寒川広域リサイクルセンターに行って学ぶことができていたら、さらに良かったと思う。 【今後の課題】 ・誰もが植物に興味をもって育てられるような指導の工夫。 ・ごみについて、子どもたちが主体的に活動できるような動機づけの工夫。
		2	ごみの減量を目指し、ごみの分別、リサイクル活動を調べる。	4年各担任	4年生		
		3	廃材を使った工作をする。	4年各担任	4年生		
田植え	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	鈴木國臣さんから田んぼの講話を聴く。	5年各担任	5年生	・「しろかき」「田植え」「稲刈り」に取り組むことで、体験的な学習を通して、米作りについて考え、販売まで取組めた。	【取組の評価】■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・稲を育てて収穫し、販売するまでの農業体験をすることができた。農業の大変さが身をもって理解できた。 ・SDGsの項目が多いため、全ての項目を網羅した学習はできなかったが、互いに共有することで多くの項目について学ぶことができた。 【今後の課題】 ・田んぼ塾の方の高齢化が進んでいることから、活動の継続に不安がある。 ・限られた授業時数の中で、SDGsをどのように扱っていくか検討する必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 ・稲作について年間計画の具体的な打ち合わせが必要である。 ・児童の興味のあるものを調べ学習させるだけでは、全項目を網羅できない。
		2	田植え体験をする	5年各担任	5年生		
		3	収穫したお米の販売を行う。	5年各担任	5年生		
地球環境	地域の環境や地球環境の保全について学習します。 (環境教育)	1	社会科の単元「地球規模の課題の解決と国際協力」で、SDGsについて考え学ぶ。	6年各担任	6年生 教職員	・理科「生物と自然環境」、社会「地球規模の課題の解決と国際協力」で、児童がそれぞれテーマを設定し、調べ学習を進め、共有、発表をした。	

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



落ち葉を掻き集めて捨てる児童。掃除をするのは気持ちがいい。近所の人にも「いつもありがとう」と声をかけてもらった。
彼はこの後、落ち葉がなくなったらダンゴムシなどの小さな生き物はどうなるのか悩んだ。最後に彼は、掃除をすることは、生き物を追い出すことなの?と振り返った。



《 環境事業センター見学 》
見学を通して、ごみの処理方法やその課題についての理解を深めた。



《 不法投棄を減らす看板づくり 》
不法投棄を減らすための看板づくりを行い、地域環境の美化に貢献するため、地域の美化活動を行った。



《 稲刈り・収穫作業体験 》
代かきから取組んだ稲作体験もいよいよ収穫。
日常的に食べているお米について、体験的に理解を深めることができた。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】
安倍 武雄

【今後の方向性について】
取組の評価において、どの学年もおおむね良好な評価となっている。これも、特段「エコ」「環境」「SDG's」と銘打つことなく、それぞれの教科や領域において子どもたちの発想や思考に寄り添う形で学習を進めることができてきているからだと考える。
今後とも、「エコ・環境...を教える」のではなく、子どもたちの学びの結果が「エコ」「環境」「SDG's」になるよう教育課程の工夫をこらしていきたい。